



四季折々に豊かな表情を魅せるオホーツクの自然。観光資源として多くの人々を魅了する「地球からのおくりもの」を未来へ伝えていくためには、私たちの生活を「より地球に優しく」することが求められます。「走行中の排出ガスゼロ」という高い環境性能をもつ電気自動車(EV)にスポットを当て、エコライフの実践を提案してきた「オホーツクEV大学」。シリーズ最終回は、先日開催された、地球環境保護を電気自動車から考えるイベント「親子で学ぼう! 電気自動車の仕組み」の実施報告と、オホーツクエリアでの環境保全のためにさまざまな取り組みをおこなっている企業・団体を紹介し、これからの未来のためにわたしたちができることを考えます。



第2講 日産リーフ杯エコランチャレンジ!
電気自動車を体感しよう

静かさとパワーに驚きの声!



参加者からは、「とにかく静かなので驚きました。」「発進する時のレスポンスのよさとパワーにびっくりしました。」「エコを実感しながら、もう未来の乗り物じゃないんだと思いました。」「など、とても楽しく勉強になりましたという声を多数いただきました。

電気自動車の
仕組みや性能環境のこと
学んで体験したよ!

先日実施された「EV大学課外授業 親子で学ぼう! 電気自動車の仕組み」。10組31人の参加者が、さらなる普及が期待されるEVの仕組みや役割を実際に見て、触れて、乗って体験しました。



第2講 日産リーフ杯エコランチャレンジ!
電気自動車を体感しよう

いよいよ結果発表!
優勝の栄冠はどのグループに!?



各グループ順調にゴールし、いよいよ結果発表。栄えある優勝は、平均電費11.8km/kwhを記録した北見市からご参加のグループでした。多くのチームが9km/kwh台のスコアだったのに対してダントツの優勝。往路での信号待ちが1回だけという幸運も見方しての栄冠でした。

第2講 日産リーフ杯エコランチャレンジ!
電気自動車を体感しよう

新鮮な食材いっぱいのバーベキュー
ランチでエネルギーチャージ!



中継地点のノーザンパークリゾートにて地元産の食材を中心としたバーベキューランチをお腹いっぱい堪能。食事中も往路の走行をチェックしたり、復路の作戦会議をしたり各グループとも後半戦に向けて大盛り上がり。

第2講 日産リーフ杯エコランチャレンジ!
電気自動車を体感しよう

EVの走行性能を体感!



走行ルートは自由なため各グループそれぞれのドライブルートで走行し、EVの走行性能を体感していました。中には事前に下調べをして参加したグループも!? どのグループも電費向上のため、急発進・急加速を控えたエコドライブで中継地点を目指します。

第2講 日産リーフ杯エコランチャレンジ!
電気自動車を体感しよう

晴天の中
「エコランチャレンジ」スタート!



夏の日差しが降り注ぐ絶好のドライブ日和の中、日産リーフに乗って北見日産自動車西富店とノーザンパークリゾートを往復運転し、電費を競うエコランチャレンジを実施。優勝目指してエコドライブでいってらっしゃい!

※電費とは電力エネルギーの単位容量あたりの走行距離を示す指標です。

第1講 見て、触れて勉強しよう!
電気自動車の仕組み

CO₂を減らすことが地球環境を守ること!



地球温暖化の影響で北極の氷が減っていること、そして海面の上昇で「ツバル」という水没しゆく国があることに子どもたちは驚いていました。自動車の排出ガスもその原因の一つとなっていることを知り、エコカーやハイブリッド車、そして電気自動車が生まれてきた理由が分かったようです。

第1講 見て、触れて勉強しよう!
電気自動車の仕組み

EVは暮らしの電源としても活躍!



EVはガソリン車と比較し、ランニングコストが低く、さらに日産リーフなら家庭の電源としても活用できることを学びました。また、震災によるガソリン不足に陥った東北の被災地で往診やパトロール車両として活躍した事例も学び、車への価値観が変わりつつあることを改めて実感しました。

第1講 見て、触れて勉強しよう!
電気自動車の仕組み

本当だ! マフラーがない!!



「へー、こうやって充電するんだ」「ボタンを押して起動するなんて電化製品みたい」「本当にマフラーがないんだね」一見すると見慣れたガソリン車と変わらないEVも、説明を受けながらよく観察してみると、新たな発見の連続に大人も子供もどきどきワクワク。

第3講

「オホーツクのゼロ・エミッションを考える」
「これからの未来のために、今できること」

紹介した取り組みに共通する点は、「地球のことを考え、限りある資源を最大限に活用すること。私たちが、自然環境のこと、そして未来のオホーツクの姿について一人一人が少しずつ考えて行動することで、環境に過度な負荷をかけないゼロ・エミッション社会の実現がぐっと近づきます。」

「新工機大賞」で経済産業大臣賞を受賞したほか、多くの評価を獲得しています。



注目度が高まる自然(再生可能)エネルギー。風力や太陽光に加え、動植物由来の燃料を使ってエネルギーを生産させるバイオマスエネルギーの分野で、先駆的な取り組みをおこなう団体がオホーツクに存在します。津別町の林業や建築資材業者、北海道森林組合連合会などで構成され、カラマツやトドマツの原木を単板に加工している「津別単板協同組合」では、工場から排出される端材を燃料にした熱電供給システムを導入し、化石燃料を使用することなく、工場での熱・電エネルギーのほぼ100%を賄っています。かつては廃材として処分されていた木くずをエネルギー資源として有効活用する取り組みは、国内のみならず世界中から注目を集め、2009年度の「新工機大賞」で経済産業大臣賞を受賞したほか、多くの評価を獲得しています。

③工場廃材のバイオマス資源としての利用(津別町)
注目度が高まる自然(再生可能)エネルギー。風力や太陽光に加え、動植物由来の燃料を使ってエネルギーを生産させるバイオマスエネルギーの分野で、先駆的な取り組みをおこなう団体がオホーツクに存在します。津別町の林業や建築資材業者、北海道森林組合連合会などで構成され、カラマツやトドマツの原木を単板に加工している「津別単板協同組合」では、工場から排出される端材を燃料にした熱電供給システムを導入し、化石燃料を使用することなく、工場での熱・電エネルギーのほぼ100%を賄っています。かつては廃材として処分されていた木くずをエネルギー資源として有効活用する取り組みは、国内のみならず世界中から注目を集め、2009年度の「新工機大賞」で経済産業大臣賞を受賞したほか、多くの評価を獲得しています。



②ホタテ貝殻の加工処理による土壌改良資材化(北見市常呂町)
雄大なサロマ湖に面し、日本屈指のホタテ生産量を誇る北見市常呂町。日本で最初に取り組んだホタテの養殖が軌道に乗り始め、水揚げ量の増加が著しかった1970年代後半、それゆえに毎年大量に排出される貝殻の処理が問題となっていました。なにか有効な利用法はないか?そこで注目されたのが貝殻のもつ土壌改良効果でした。この効果を生かした土壌改良材を生産すべく、常呂町(現北見市)、常呂漁協、常呂町農協の三者が出資して常呂町産業振興公社を設立。翌年からホタテの貝殻を粉砕した土壌改良料の生産を始めました。生産された商品は主に地元の農家で使用され、小麦や玉ねぎなどの生育に役立てられています。資源を有効活用することの取り組みは高く評価され、廃棄物削減に努めた企業・団体を表彰する「北海道ゼロ・エ三優秀賞」を2011年に受賞しました。

①知床・ウトロ温泉での電気自動車充電設備の設置(斜里町)
世界自然遺産「知床」を目前に望むウトロ温泉街には、自然環境保護への取り組みとして、九つの宿泊施設で電気自動車の充電設備が設置されています。この取り組みは、2011年に知床温泉旅館協同組合が企画。加盟するホテル、民宿のうち7施設が200ポルト、2施設が100ポルトの普通充電器を設置しました。宿泊者はホテル滞在中に充電(充電料金500円)することができ、EV利用者から好評です。



未来のために、ゼロ・エミッションへの取り組みが始まっています。
日常生活や産業活動で排出される廃棄物のゼロ化を目指す取り組みを指すゼロ・エミッション。この定義のもと、自然や地球に負荷をかけることなく、人々が快適に暮らせる社会をゼロ・エミッション社会の実現が求められています。ここオホーツクエリアでも未来のためにゼロ・エミッションへの取り組みを実践している人たちがいます。